



文化財保護センターだより

第27号

平成12年3月10日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

三田洞本部・整理所 〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
 TEL 058-237-8550(代) FAX 058-237-8551

飛騨出張所 〒509-4122 岐阜県古城郡国府町名張字峠1425-1
 TEL 0577-72-4784 FAX 0577-72-4690

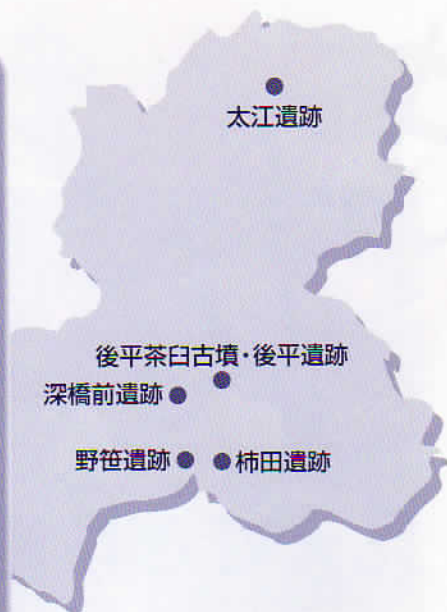
●もくじ	
表紙 見えてきた地域の歴史……………1	調査 センター1年の歩み……………7
たより 県内各地の現地説明会……………23	アラカルト 小型土器は何に使われたのか……………8
行事 発掘速報展 記念講演会……………45	紹介 野村忠夫文庫の開設……………8
まとめ 平成11年度岐阜県内埋蔵文化財発掘調査の状況……………6	編集後記……………8

見えてきた地域の歴史

県内各地で現地説明会を開催



可児市の柿田遺跡^{かきだ いせき}では、現地説明会を12月11日（土）の午後1時30分から開催しました。地元の可児市、御嵩町だけでなく、愛知県や三重県からの見学者もあり、400名近いたくさんの参加者がありました。現在調査している面積はナゴヤドームと同じぐらいの広さです（約4万㎡）。川の流れを変えたり、岸を守ったりするために行われた古墳時代の土木工事跡や弥生時代から中世にかけての住居跡を公開し、それらの時代に利用された土器 木製品なども展示しました。調査員の説明に真剣に耳を傾けていた見学者の姿が印象的でした。



ふか ぼし まえ い せき 深橋前遺跡

12月4日(土)、関市下有知の深橋前遺跡の現地説明会が行われました。12月とは思えない暖かな天候のもと、100名をこえる数多くの見学者でにぎわいました。弥生時代末から古墳時代初頭にかけての30軒以上におよぶ竪穴住居のほとん

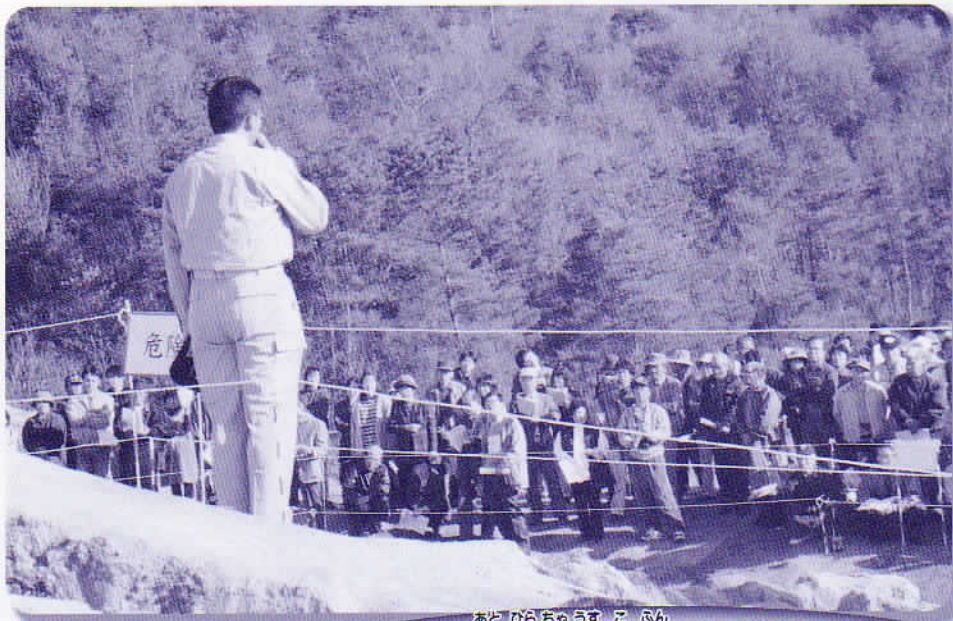
どが、人が立っているのがやっとの急斜面に立地しており、見学者を驚かせました。また、カマドの使われていない時代の住居にみられる地床炉の使い方について数々の質問を投げかける姿も見られ、熱気のこもった説明会となりました。



たい え 太江遺跡

11月6日(土)、秋晴れの空に紅葉が映える好天のもと、約150名の見学者が担当者の説明に耳を傾けました。発掘調査区の隣にある寿楽寺周辺は、以前から古代の瓦がみつかり、飛騨地方でもっとも古い時期に造られた「左近麿寺(寿楽

寺麿寺)」があったと伝えられてきました。今回の調査ではたくさんの瓦にまじって鴟尾の破片が出土しました。また、太い大きな柱が立てられていた穴や基壇がみつき、古代寺院(7世紀後半から8世紀)の跡であると確認されました。



あどひらちやうす こ ふん 後平茶臼古墳・後平遺跡



12月4日(土)、絶好の天候に恵まれ、約300名の見学者がありました。5世紀末に築かれたと考えられるこの古墳の墳丘および石室の様子や尾張型埴輪(写真右上) 鏡(右下)は県内でもたいへんめずらしく、とくに注目を集めました。また、

弥生時代末から古墳時代初頭にかけての焼失家屋や方形周溝墓では、熱心に質問する姿もみられました。現地説明会を通じて発掘調査の成果を広く公開でき、担当者としての喜びを感じた一日でした。



の ぎき 野篁遺跡

2月11日(金)、建国記念の日に現地説明会を行いました。風もなくおだやかな天候に恵まれ200名を超える多くの見学者がありました。見学に訪れた人たちは、1300年ぶりによみがえった古墳を真剣な眼差しでながめたり、住居跡などの遺構について担当者に熱心にたずねたりしてい

ました。中でも、小学生の女の子が「昔のトイレはどこですか。」の質問に、担当者が「わかりません。」と答えると、「調査が進んでもわからないこともたくさんあるんですね。」とつぶやいた姿がとても印象的でした。

平成11年度 発掘速報展 ～いにしえの美濃と飛騨～

平成12年2月16日から3月5日までの17日間、「発掘速報展～いにしえの美濃と飛騨～」を岐阜県博物館において開催しました。今回は、平成10年度に発掘調

査を実施した県内12遺跡の主な遺構や遺物を紹介しました。寒い時期にもかかわらず、県内外からたくさんの方々に見学していただき、好評の内に終了しました。



▲大胆かつ細心に！
大詰めを迎えた展示作業



◀ やっとのことで展示が完成！！
見学者を待つ展示遺物の面々



▲遺物にふれて
学ぶ体験コーナー





鏡の魅力にウットリ

発掘速報展の関連行事として2月20日(日)に、南山大学教授の伊藤秋男氏による「鏡にみる美濃の古墳時代」の講演を行っていただきました。街のいたる所に雪が残り足もとの悪い中、会場の定員をはるかに上回る多数の参加者があり、会場内は熱気に包まれました。

講演は、県内各地から出土した鏡について、レプリカや画像、スライドをまじえて小学生の参加者にもわかりやすくお話していただき、たいへん好評でした。美濃地方の古墳文化における鏡の重要性をあらためて認識させられ、鏡の魅力に取り憑かれたひとときとなりました。



平成11年度 岐阜県内埋蔵文化財発掘調査

平成12年1月31日現在

遺跡名(所在地)	調査主体	主な時代	主な遺構・遺物など
下西郷一本松遺跡 (岐阜市下西郷)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	弥生～古墳時代	竪穴住居跡・溝・土塼 弥生土器・須恵器・土師器
岐阜城千疊敷遺跡 (岐阜市大宮町)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	鎌倉～戦国時代	石垣・石敷・井戸・石列 山茶碗・瀬戸美濃・中国磁器・土師器皿・鍔型
加納城跡 (岐阜市加納丸ノ内)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	近世	南門・ます形瓦
鷺山仙道遺跡 (岐阜市下土居)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	戦国時代	溝 山茶碗・土師器皿
昼飯大塚古墳 (大垣市昼飯町)	大垣市教育委員会	古墳時代	竪穴式石室・粘土椽・鉄器埋納・埴輪列・埴輪棺 盗掘坑内(刀子形・斧形・埴形石製品・石銅片・鉄刀・剣片)
美濃国分寺跡 (大垣市青野町)	大垣市教育委員会	奈良～平安時代	河川跡・土塼・溝 須恵器・土師器・緑釉陶器・灰釉陶器・銅銭・瓦・墨書土器
美濃国府跡 (垂井町府中)	垂井町教育委員会	奈良～平安時代	掘立柱柱穴・竪穴遺構・溝 須恵器・土師器・灰釉陶器・緑釉陶器・山茶碗・青磁・瓦・木片
願成寺西墳之越古墳群 (池田町願成寺)	池田町教育委員会	古墳時代	横穴式石室 須恵器
本郷城跡 (池田町本郷)	池田町教育委員会	中世	堀跡 中世陶磁器・土師器皿
高畑遺跡 (池田町片山)	(財)岐阜県文化財保護センター	弥生 奈良時代	回廊跡(道跡)・柱穴・土器だまり・溝 弥生土器・須恵器・灰釉陶器・瓦・刀子
弥勒寺東遺跡 (関市池尻)	関市教育委員会	飛鳥～平安時代	掘立柱建物跡・門跡 須恵器・土師器・灰釉陶器
松洞古墳 (関市千疋)	関市教育委員会	古墳時代	横穴式石室 須恵器
松洞火葬墓 (関市千疋)	関市教育委員会	奈良時代	須恵器・人骨
末洞遺跡 (関市下有知)	関市教育委員会	弥生～奈良時代	竪穴住居跡 弥生土器・須恵器・土師器
深橋前遺跡 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	弥生～古墳時代	竪穴住居跡 土師器・鉄製品・銅製品
大平前遺跡 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	奈良時代	巨岩祭祀遺構 須恵器(坏蓋・坏身)
井守山遺跡 (美濃市大矢田)	美濃市教育委員会	縄文時代	竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡・溝・土坑・埋裏 縄文土器・石器・石彫り・須恵器・土師器・灰釉陶器
林光庵遺跡 (美濃市志摩)	美濃市教育委員会	中世 近世	配石遺構 中近世陶器
段遺跡 (美濃市段)	美濃市教育委員会	縄文・古墳時代・中世	竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡・土坑 土師器・山茶碗・石器(打製石斧)
後平茶臼古墳 (富加町大平賀)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	造り出し付き円墳・竪穴系横口式石室 馬具(鏡・鉸具)・埴輪・須恵器
後平遺跡 (富加町大平賀)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文～古墳時代	竪穴住居跡・方形周溝墓 縄文土器・弥生土器・石器
後平1号古墳 (富加町大平賀)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	円墳 馬具(轡)
尾崎遺跡 (美濃加茂市蜂屋町)	美濃加茂市教育委員会	弥生時代～古時代	竪穴住居跡・土坑・溝 弥生土器・須恵器・土師器・石器・炭化材
野笹遺跡 (美濃加茂市御門町)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文～中世	古墳・竪穴住居跡・土坑・溝 縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・石器・銅鏡・灰釉陶器
熊野古墳 (可児市広見)	可児市教育委員会	古墳時代	古墳(横穴式石室)・中世溝 須恵器・土師器・鉄器・金銅装太刀・山茶碗
大森新田5～9号墳 (可児市大森)	可児市教育委員会	古墳時代	古墳(横穴式石室) 須恵器
柿田遺跡 (可児市御嵩町)	(財)岐阜県文化財保護センター	弥生時代～中世	土木工事が施された旧河道・区画溝・竪穴住居跡・掘立柱建物跡 須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗・石器・玉類・木器
野中遺跡 (多治見市宝町)	多治見市教育委員会 (財)多治見市文化振興事業団	弥生時代・中世～近世	溝状遺構・土塼 弥生土器・山茶碗・近世陶磁器
八幡古窯跡 (土岐市泉町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	江戸時代	連房式登窯・物原陶器
元屋敷陶器窯跡 (土岐市泉町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	安土桃山～江戸時代	物原陶器
妻木城跡 (土岐市妻木町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	室町～江戸時代	礎石建物跡・土坑 土師器・陶器・中国陶器
三仏寺廃寺 (高山市三福寺町)	高山市教育委員会	白鳳～奈良時代	礎石根石列・基壇建物跡 ヘラ書文字瓦・円面硯・瓦塔
江馬氏城館跡 下館跡 (神岡町殿)	神岡町教育委員会	中世	築地堀柱穴列・門の主柱穴(脇門)・墨書土師器皿埋納穴 土師器皿・瀬戸美濃・珠洲・青磁・白磁
太江遺跡 (古川町太江)	(財)岐阜県文化財保護センター	古代	寺院の基壇・根石・竪穴住居跡・カマド 鴟尾・軒丸瓦・軒平瓦・三彩・塑像(仏足)・金銅製品・鉄製品

センター1年の歩み

- 11.2.10 産業医井奈波氏、下有知遺跡群指導
- 23 富山大教授宇野氏、下有知遺跡群指導
- 3. 6 現地説明会(深橋前遺跡他) 120名
- 19 理事会 穂積整理所移転作業(～30)
- 23 揖斐川整理所移転作業(～26)
- 26 整理所仕事納め
- 31 石黒常務理事他7名退任
- 4. 1 二山常務理事他6名着任
- 5 新任者研修
- 6 整理所仕事始め
- 16 三田洞整理所新棟工事完了
- 5.13 高山市立北小現地見学(冬頭城跡)
- 6.10 三重大名誉教授八賀氏、国府整理所指導
- 15 理事会
- 30 三重大名誉教授八賀氏、後平茶臼古墳他指導
- 7.10 岐阜県発掘調査報告会 190名
- 11 国府町立国府小飛騨出張所見学
- 8. 5 タイムスリップ探検隊、柿田遺跡 48名
博物館実習(深橋前遺跡)
教員12年日研修(～6 太江遺跡)
- 25 県史編纂室、遺物撮影(飛騨出張所)
- 27 県教委文化課長阿部氏、後平茶臼古墳他・柿田遺跡視察



- 9. 9 富加町教育長松山氏、後平茶臼古墳他視察
- 28 県史編纂室、三田洞整理所訪問
- 10. 4 愛媛大教授田崎氏・明治大教授石川氏、三田洞整理所指導
- 8 産業医井奈波氏、太江遺跡指導
- 21 京都大教授上原氏、三田洞整理所指導
- 26 三重大名誉教授八賀氏、三田洞整理所指導
- 11. 2 三重大名誉教授八賀氏、太江遺跡指導
- 6 現地説明会(太江遺跡) 150名
- 11 基礎講座(～12 本部・後平茶臼古墳他)
- 17 南山大教授伊藤氏、柿田遺跡指導
- 26 三重大名誉教授八賀氏、柿田遺跡・後平茶臼古墳他指導
- 12. 2 金沢美術工芸大教授小島氏、国府整理所指導
- 3 記者発表(柿田遺跡)
- 4 現地説明会(深橋前遺跡 110名・後平茶臼古墳他 300名)
- 7 関市立富野小現地見学(後平茶臼古墳他)
- 11 現地説明会(柿田遺跡) 400名
- 14 京都大助手富井氏、三田洞整理所指導
- 16 北海道大助教授小杉氏、三田洞整理所指導
- 20 国際日本文化研究センター教授宇野氏、柿田遺跡指導
- 22 三重大名誉教授八賀氏、野笹遺跡指導
- 24 産業医井奈波氏、野笹遺跡指導
- 12.1.27 防災訓練
- 2.11 現地説明会(野笹遺跡) 200名
- 16 平成11年度発掘速報展「いにしへの美濃と飛騨」(～3.5)
- 20 発掘速報展記念講演会(南山大学伊藤秋男教授)
- 25 野村文庫贈呈式



小型土器は何に使われたのか？

～岩井谷遺跡（揖斐郡春日村）から出土した縄文時代後期のミニチュア土器～

写真の土器は、手のひらに乗るくらいの小さな縄文土器です。一番大きい土器でも口の直径が7.2cm、高さが7cmしかありません。こんな小さな土器はいったい何に使われたのでしょうか。

岩井谷遺跡は、今から約4,500年～3,000年前の縄文時代中期から後期の遺跡で、建物の跡やお墓と思われるたくさんの穴がみつかりました。

3つの小さな土器は、お墓と思われる穴の近くに折り重なるように出土しました。



小さくても、とてもいねいに作られています。中には文様が施されている土器もあります。お墓の近くから出土したことから、亡くなった人を埋葬するときによいように埋めたり、お供えしたりしたのかもしれませんが。あるいは、子どものおもちゃなのかもしれません。

小さな縄文土器は、私たちに縄文時代の人々のくらしや思いについていろいろな想像をかきたててくれます。

野村忠夫文庫の開設

故岐阜大学名誉教授野村忠夫氏の所蔵図書が当センターへ寄贈されることとなり、2月25日、その贈呈式が行われました。

野村忠夫先生は、日本古代史を専攻され、特に律令官人制研究の第一人者として高い評価を受けています。また、長年にわたり岐阜大学教育学部教授として数多くの教育者や研究者を育てられました。

主な著作としては、『律令官人制の研究』『律令官僚の世界』『研究史大化改新』の他、この地域を扱った『古代の美濃』などがあります。

今回寄贈された所蔵図書は、日本古代史に関する図書をはじめ、県内文化財資料、通史、辞典類、図録など約4,800冊にのぼります。これら

らの図書は、「野村忠夫文庫」としてセンター中館に専用の文庫室を設置し、広く公開する予定です。（現在整理中）



編集後記

県博物館での速報展も今年で4回目となりました。回を重ねるに従って来場される方も増えてきました。開会期間中の講演会では、会場に入ることができない人もでるほどの盛況ぶりでした。

平成12年度は、センター設立10周年の節目の年となります。この間に発掘調査をし、蓄積したデータは膨大なものです。12月には、その成果を見ていただく特別展を企画しています。いにしえの人々の暮らしぶりを、土の中から掘り出す興奮や感動を味わっていただく機会にしよう、と職員一同張り切っています。

春3月、芽生えの季節。新しい発掘現場の準備が始まります。